

台湾のほうれんそうの生産、流通および日本への輸出動向

独立行政法人農畜産業振興機構

調査情報部 小林 智也

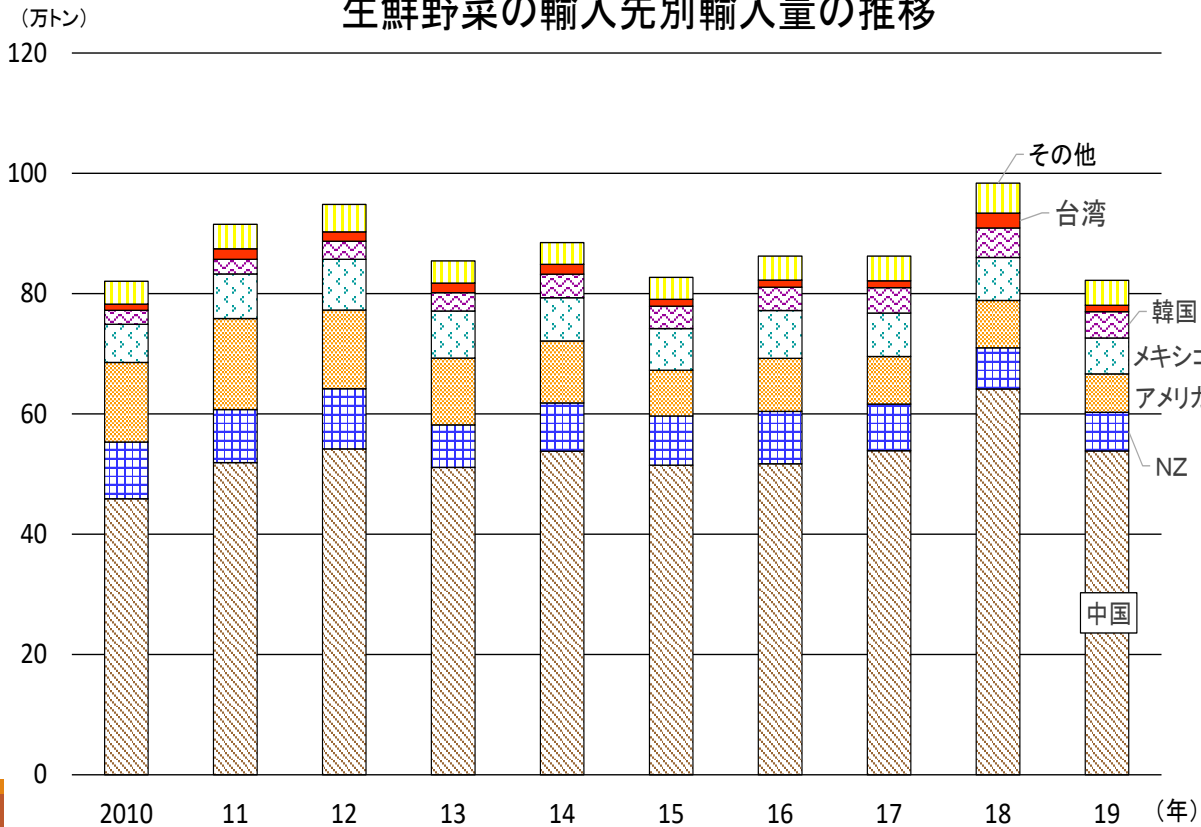
1. 日本における台湾産野菜の位置付け
2. 生産について
3. 流通について
4. 輸出について
5. まとめ

1. 日本における台湾 産野菜の位置付け

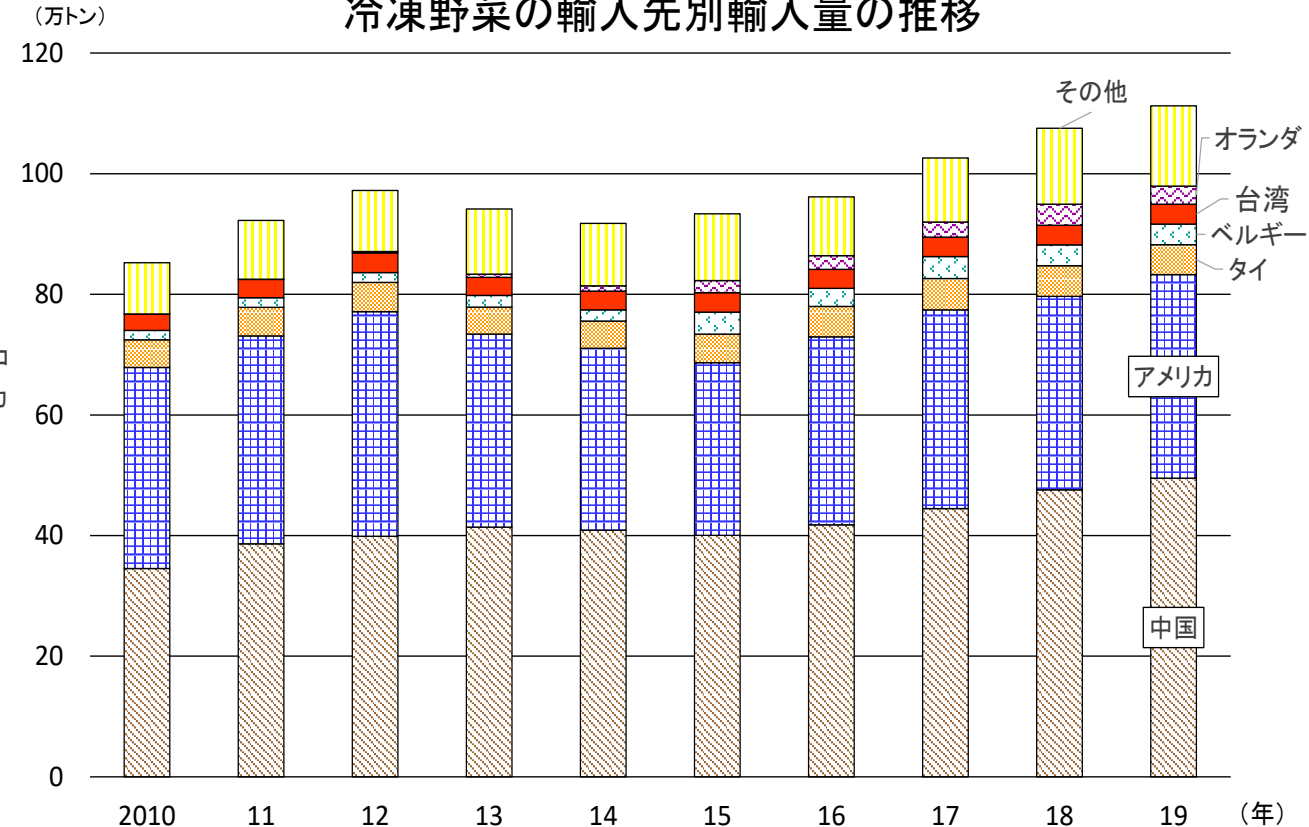
日本における野菜の輸入量の推移

- ・近年、加工、業務用野菜の需要増に伴い、輸入野菜を扱う動きも増加
- ・生鮮野菜は、2018年に一時的に増加したものの、概ね80万トン程度で推移
- ・冷凍野菜は、2015年から増加傾向で推移

生鮮野菜の輸入先別輸入量の推移



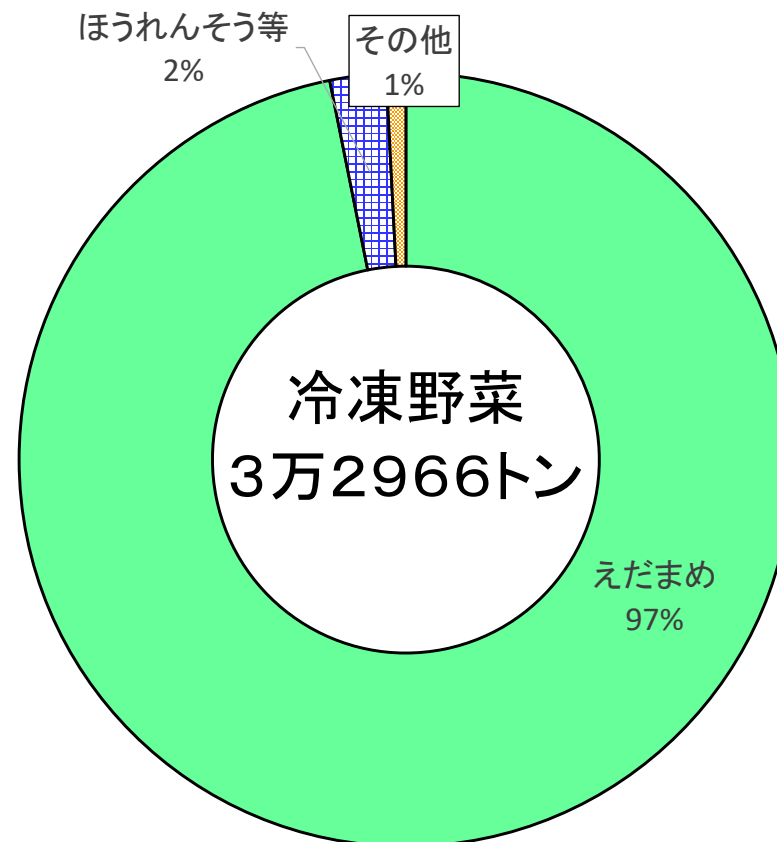
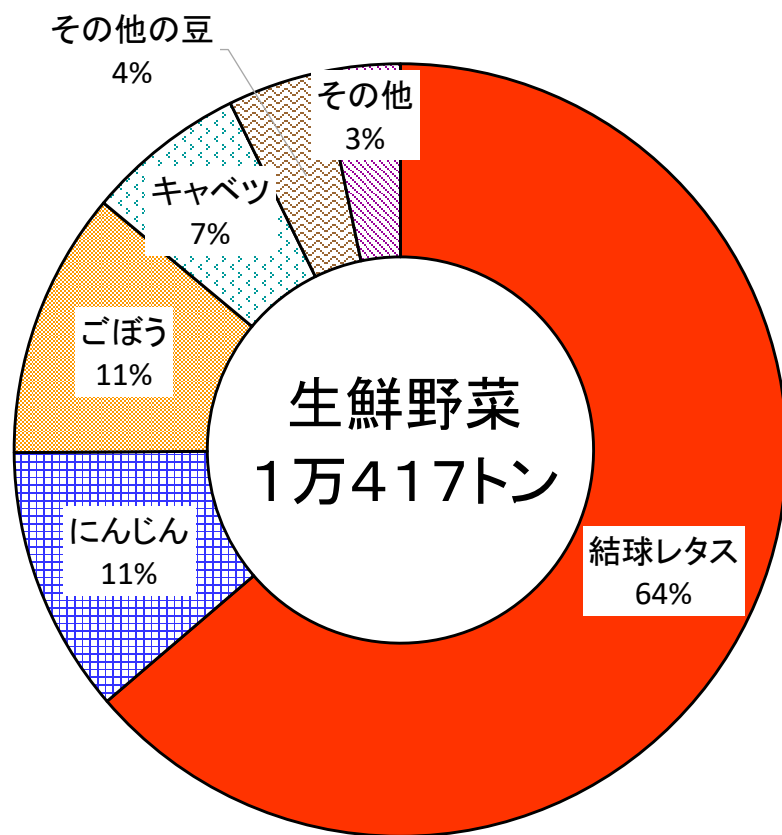
冷凍野菜の輸入先別輸入量の推移



台湾からの輸入野菜の品目別割合

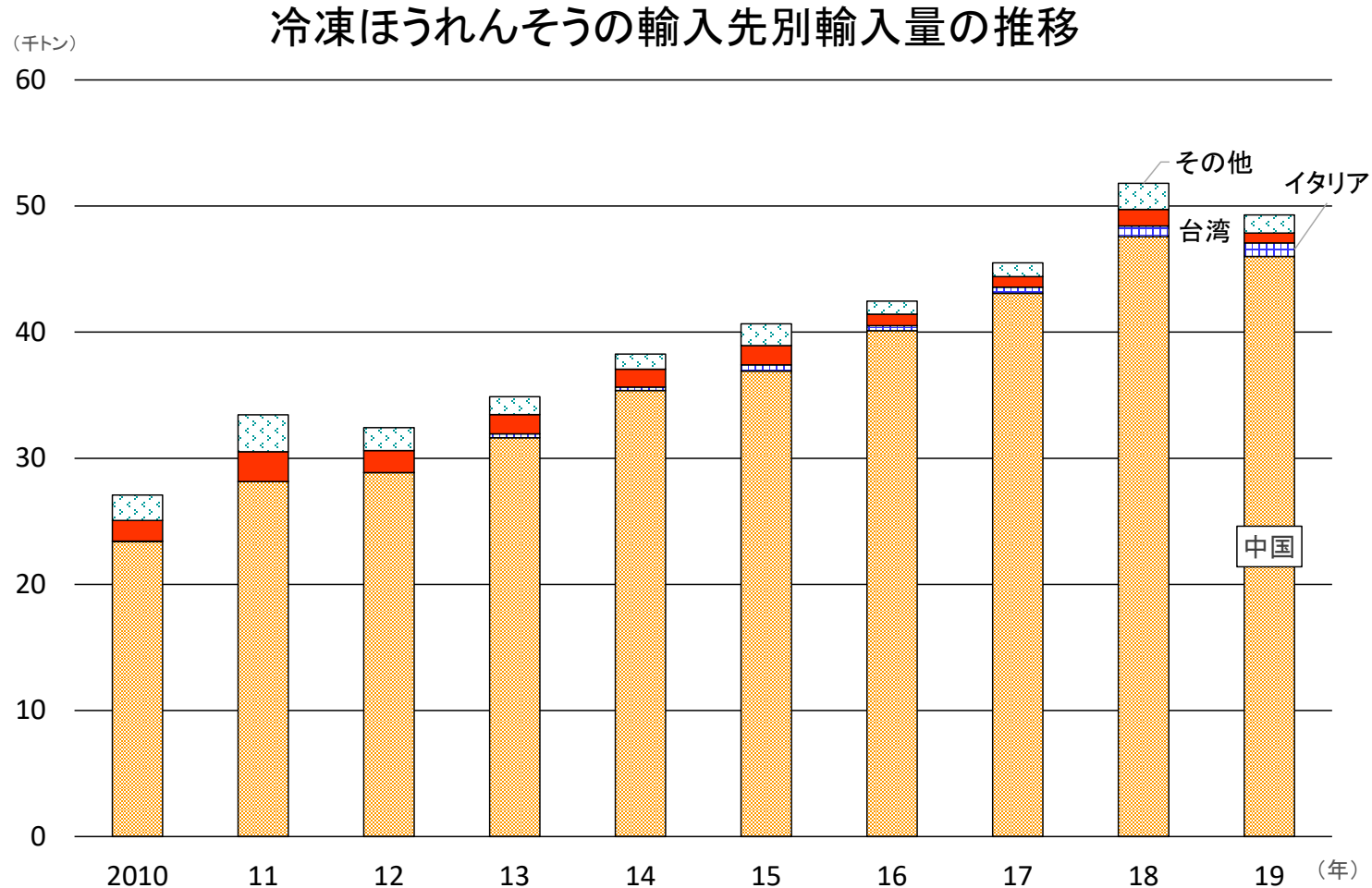
- ・生鮮野菜は、結球レタスが1位、次いで、にんじん、ごぼう、キャベツ
- ・冷凍野菜は、圧倒的にえだまめが多く、次いで、冷凍ほうれんそう等

台湾からの輸入野菜の品目別シェア(2019年)



日本の冷凍ほうれんそうの輸入動向

- ・冷凍ほうれんそうの輸入量は増加傾向
- ・台湾は中国、イタリアに次ぐ輸入先



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料: 財務省「貿易統計」)

日本の冷凍ほうれんそうの販売①

- ・冷凍ほうれんそうの販売金額も増加傾向
- ・台湾産冷凍ほうれんそうも小売店にて販売

冷凍ほうれんそうの千人当たり販売金額の推移

(単位:円)

年	2010	11	12	13	14	15	16	17	18
冷凍	127.4	166.5	180.8	198.1	173.5	180.9	200.7	205.2	243.7
冷凍調理	209.0	242.1	326.7	529.0	463.2	437.8	412.9	397.0	407.8

資料:株式会社KSP-SP「全国POSデータ」を基に、農畜産業振興機構が作成

注1:千人当たり販売金額(税抜、円):年別販売金額の合計を年別来店客数で除して1000を乗じた値の集計値

(地域や業態の規模、収録店舗数の変動に影響なく商品の売れ行きを計ることができる指標)

2:冷凍は、「冷凍農産素材」に属し、商品名に野菜名称が含まれるアイテム

3:冷凍調理は、「冷凍調理」に属し商品名に野菜名称が含まれるアイテム

日本の冷凍ほうれん草の販売②



(2019年11月 日本国内の量販店で撮影)

2. 生産について

台湾の野菜の主要産地

【台湾の面積や気候等】

・面積：3万6千平方キロメートル

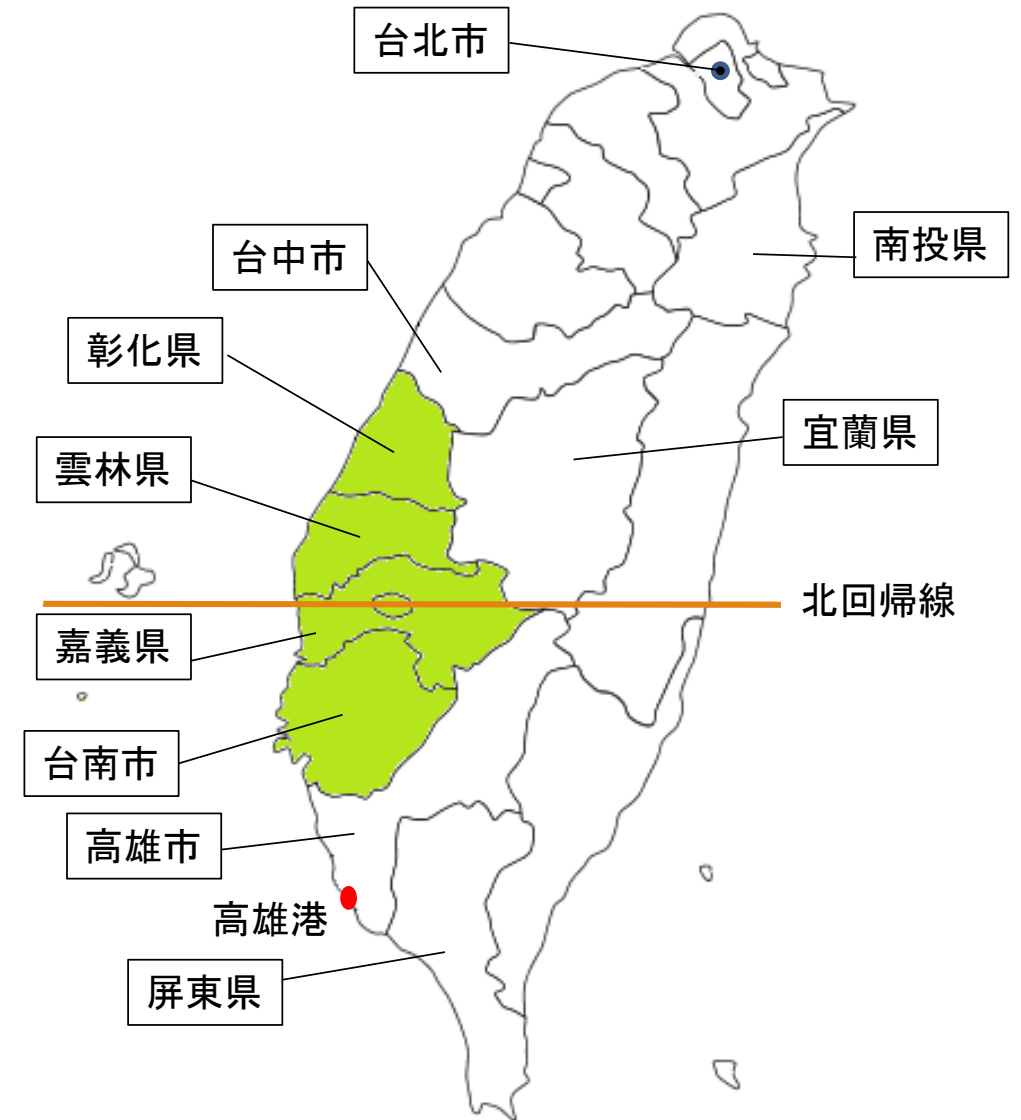
(九州よりやや小さい)

・気候：北回帰線以北が亜熱帯、以南が熱帯性

・冷凍ほうれんそう用原料の主要産地：

雲林県や嘉義県

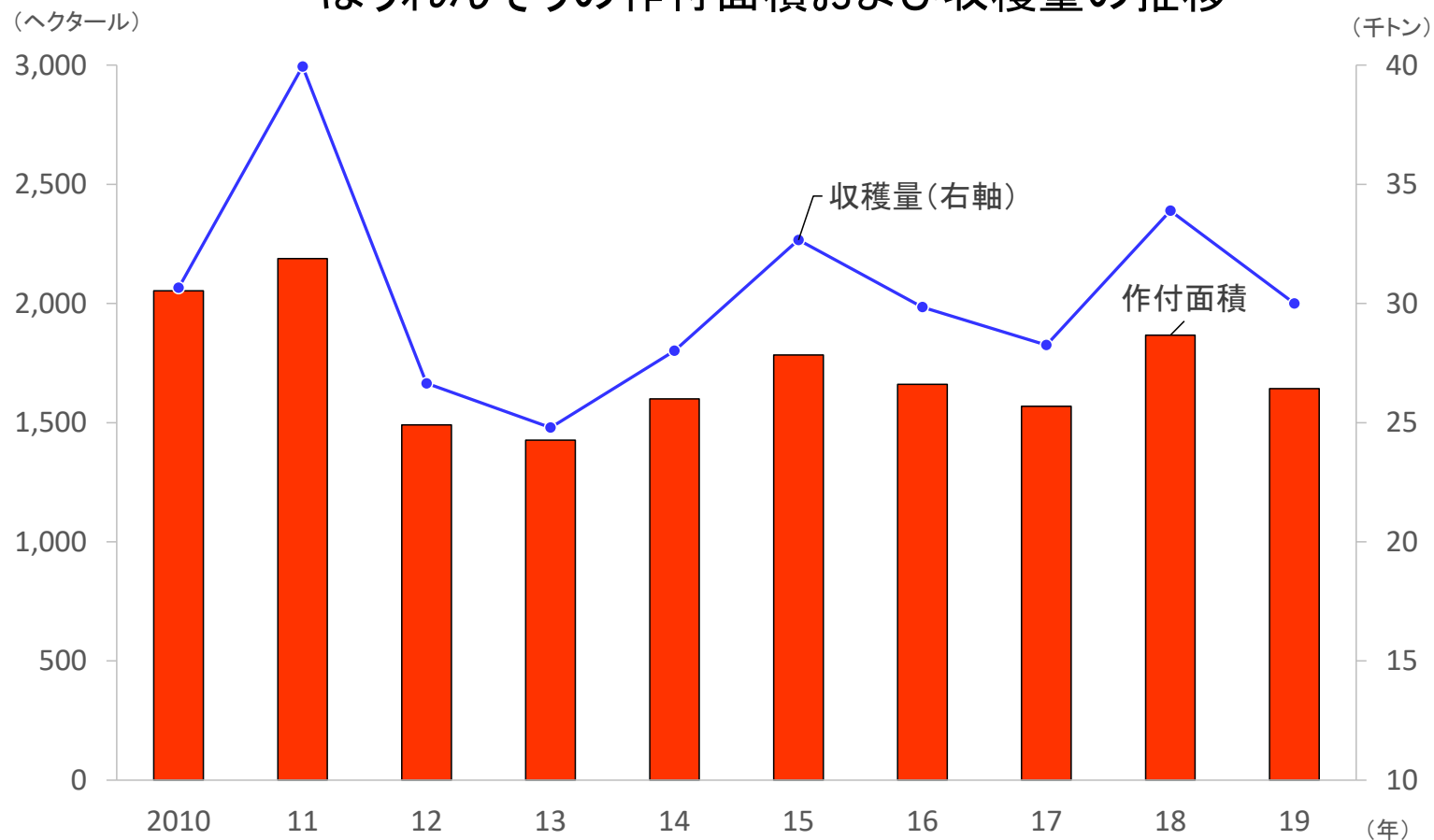
台湾の地図



台湾におけるほうれんそうの生産動向

- ・ほうれんそうの作付面積は、2011年をピークに減少傾向で推移
- ・2019年の作付面積は、1643ヘクタール、収穫量は、3万トン

ほうれんそうの作付面積および収穫量の推移



資料: 台湾行政院農業委員会

ほうれんそうの作型と品種

- ・ほうれんそうの栽培時期は限定的(12~翌3月)
- ・冬季は、栽培期間が長く、大株に仕立てたい加工用に向いている
- ・主な栽培品種は、青果向けは「西螺一號」、加工向けは「トライ」

ほうれんそうの生育ステージ

品目名	月																																			
	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
ほうれんそう	■	■	■	■	■	■	■	■	■																■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

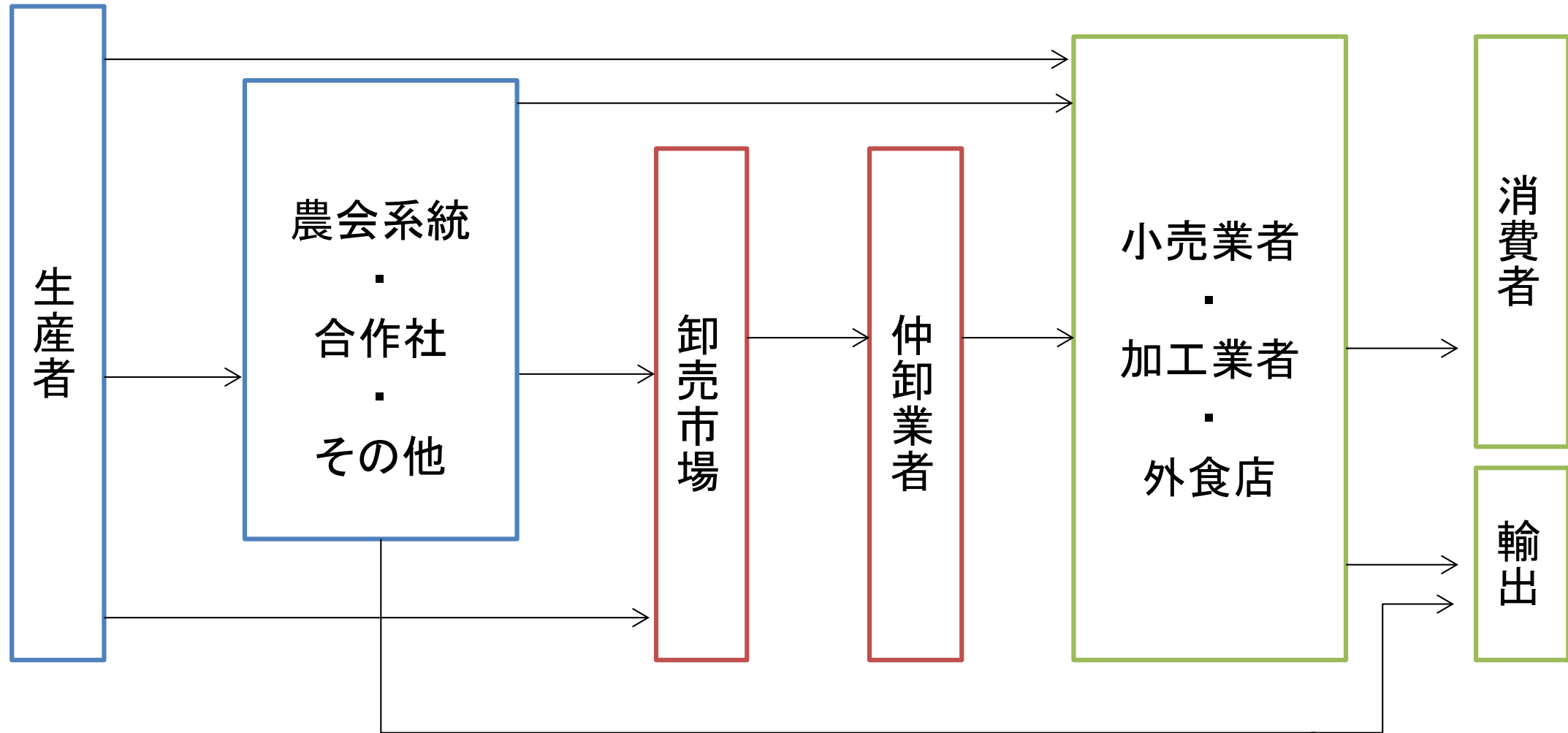
■ : 播種 ■ : 収穫

資料: 聞き取りなどを基に農畜産業振興機構作成

注: 色の濃い部分は、播種、収穫が多い時期を表している。

3. 流通について

台湾の野菜の流通経路



市場の野菜売り場



スーパーの野菜売り場

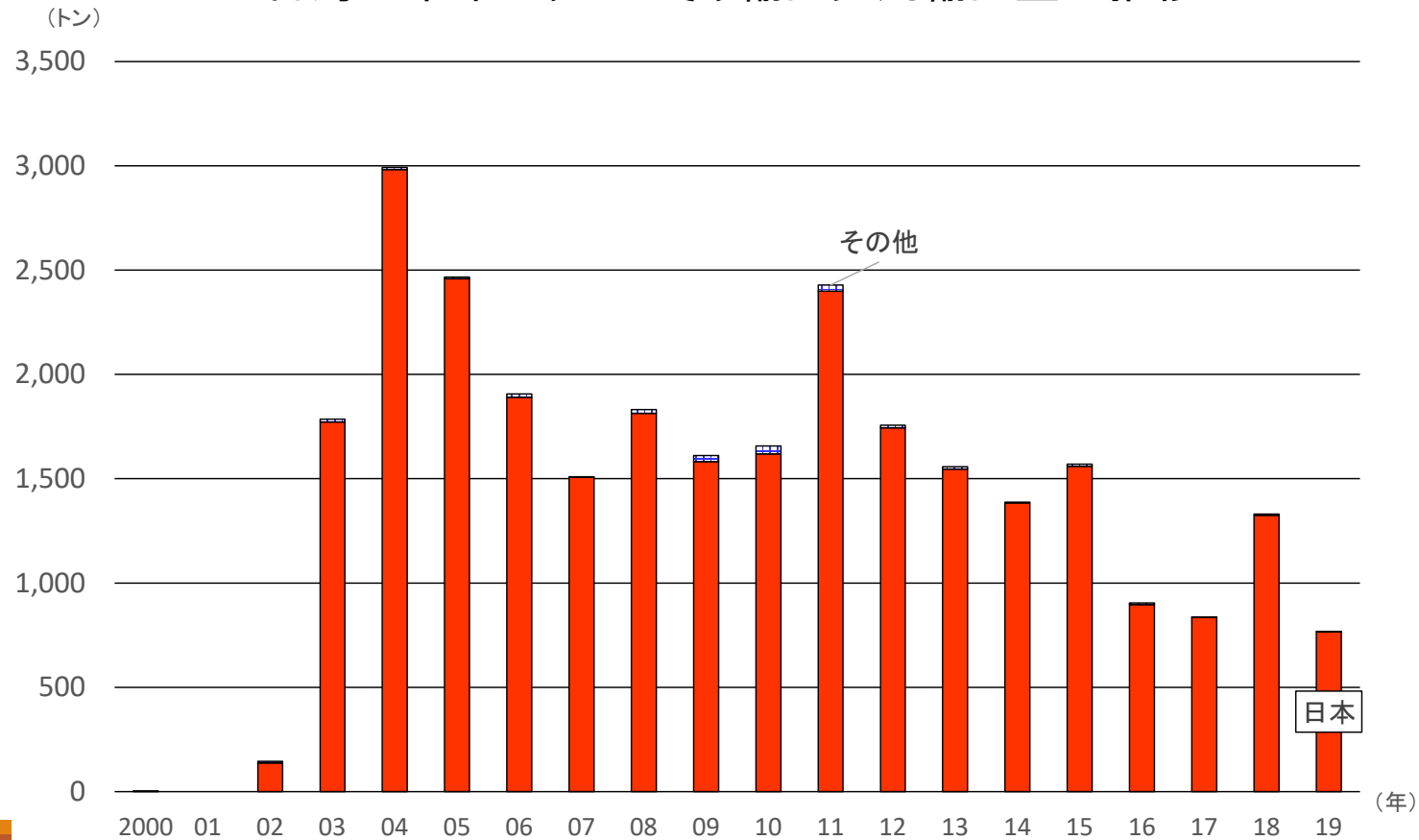


4. 輸出について

台湾の冷凍ほうれんそう輸出量

- ・冷凍ほうれんそう輸出量の大部分は日本向け
- ・2002年以降、中国に代わる産地として、輸出量を増やしていたが、2011年以降は減少

台湾の冷凍ほうれんそう輸出先別輸出量の推移



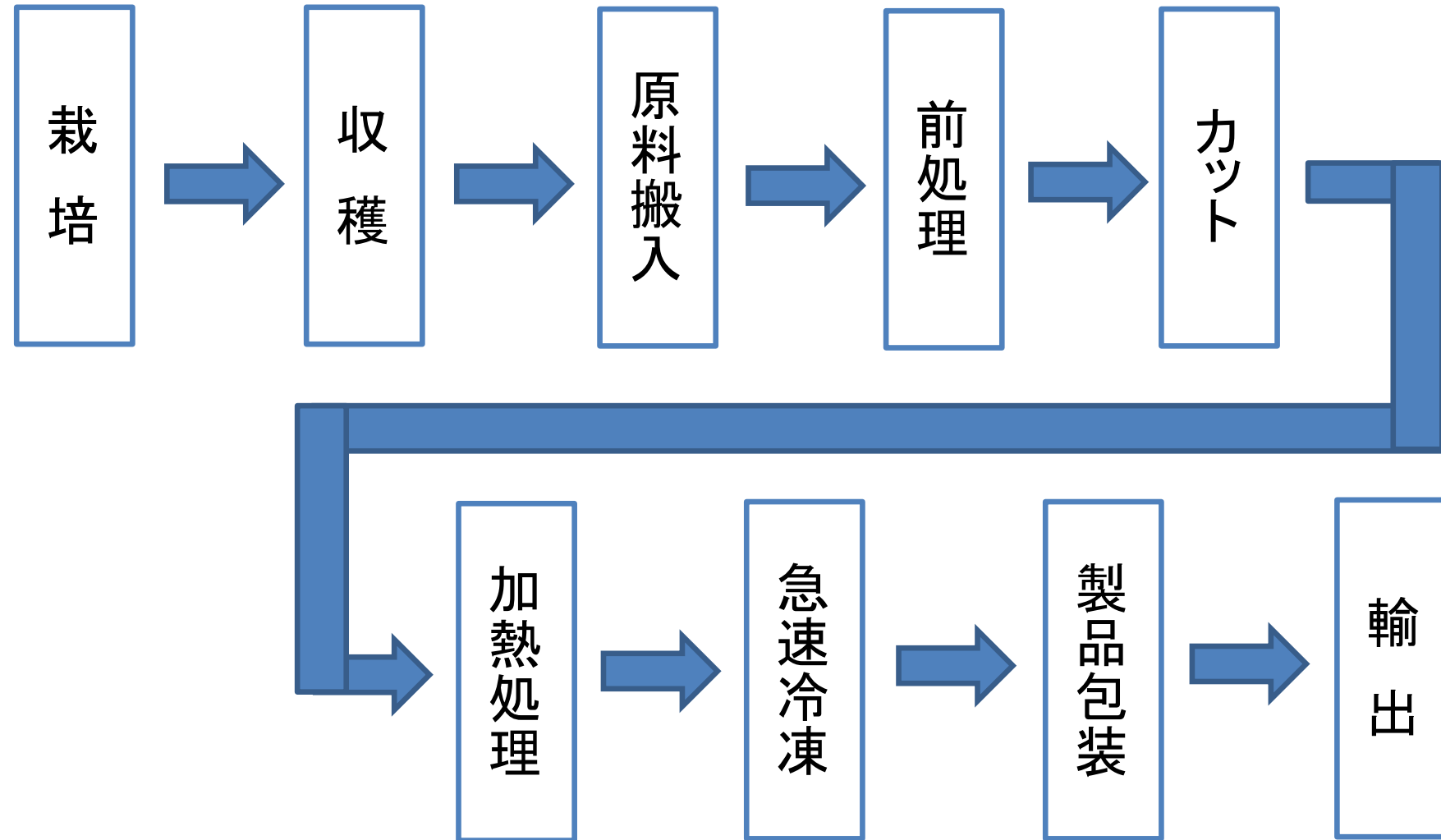
資料:「Global Trade Atlas」
注:HSコード:071030

【宏偉冷凍食品株式会社】

- ・設立：2002年
- ・所在地：屏東県
- ・製造品目：冷凍食品（えだまめ、ほうれんそう、マンゴー）
- ・生産高：6600トン（国内向け、輸出向け。2013年実績）
- ・従業員：106名（ピーク時約300名）
- ・所有設備：冷凍庫（5000トン）、冷蔵庫（50トン）



原料収穫から製品までの流れ



原料の栽培スケジュール

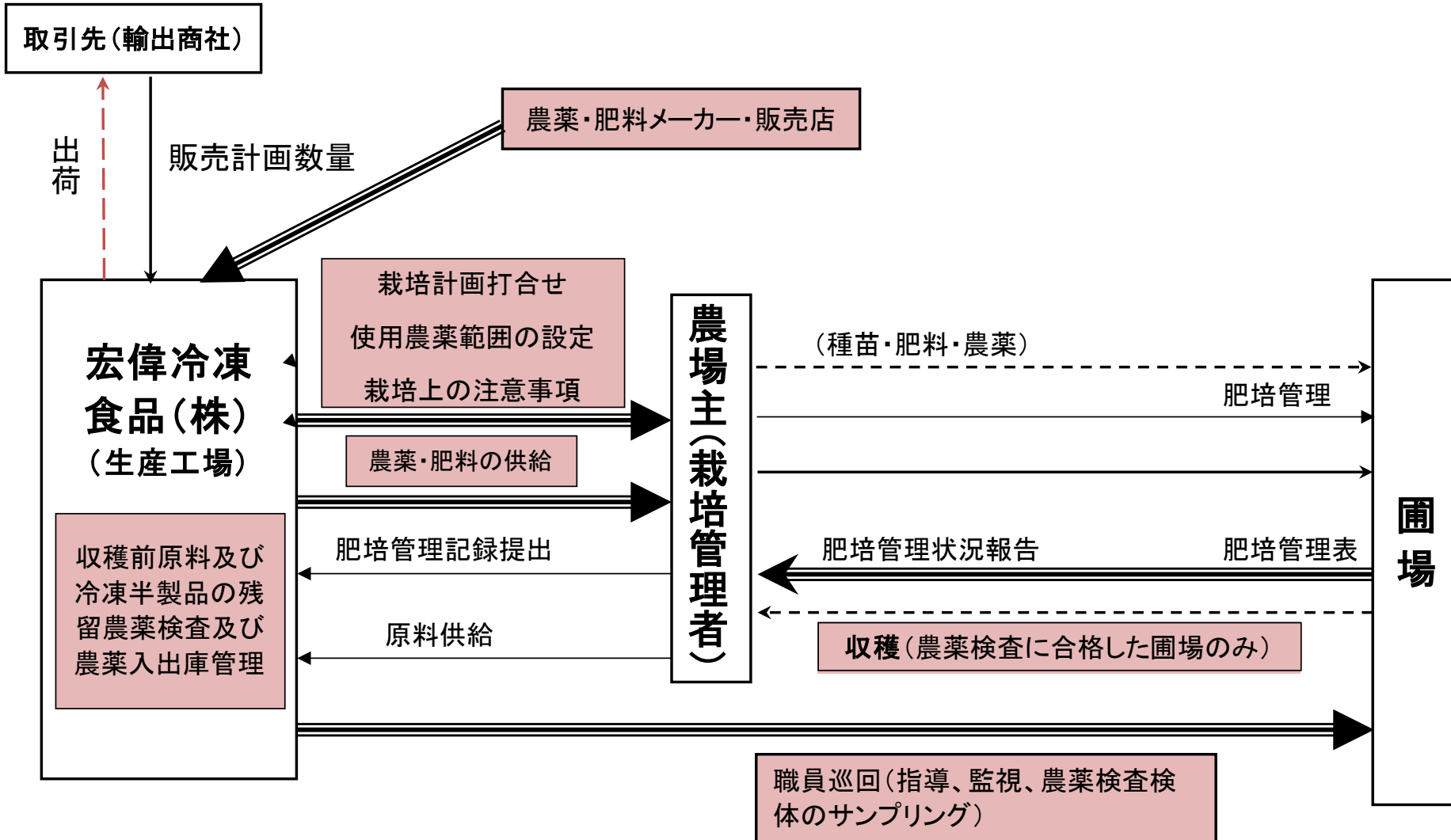
- ・工場の同じラインでえだまめとほうれんそうを製造するため、原料供給時期の重複を避けている。
- ・原料供給は、地域の農家を取りまとめている農場主と専門契約

品目名	月																																			
	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
ほうれんそう	■	■																													■	■	■	■	■	■
えだまめ			■	■	■	■	■															■	■	■	■	■	■	■	■	■				■	■	■

■ : 播種 ■ : 収穫

資料: 宏偉冷凍食品株式会社提供資料から農畜産業振興機構作成

産地管理システムのスキーム



栽培及び収穫風景



写真：宏偉冷凍食品株式会社提供



写真：宏偉冷凍食品株式会社提供

製品規格等



- ・冷凍ほうれんそうのカット規格は5センチのみ
- ・重量規格は、市販用(200グラム、250グラム、300グラム)、業務用(500グラム、1キロキログラム)
- ・凍結方法は、主にIQF(個別急速冷凍)
- ・製品の中身は、葉6割、茎4割となるよう調整
- ・歩留まりは、35～40%程度

(2019年11月 宏偉冷凍食品株式会社で撮影)

- ・台湾では、生鮮野菜が年間を通して収穫可能となるので、冷凍野菜の需要はまだ少ない。
- ・冷凍えだまめに比べ冷凍ほうれんそうの製造には多くの人手が必要となる。
- ・ほうれんそうは、収穫が手作業となっており、価格競争力を付けるには、機械化が必要
- ・製造企業も限られていることに加え、製造能力を考慮すると、輸出余力がほとんどない。

ご清聴ありがとうございました。

本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。
本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、
万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。

※ メールマガジンのご案内

独立行政法人農畜産業振興機構は、情報誌「野菜情報」を毎月発行し、ホームページでも提供しているほか、メールマガジンにより、毎月1回、最新の情報を配信しています。

メールマガジンの配信を希望される方は、機構ホームページ
(<https://www.alic.go.jp>) 下の「メールマガジン」ボタンからご登録ください。



野菜情報 2020年4月号

「台湾のキャベツ、ほうれんそうの生産・輸出動向について」



ENGLISH SITE | サイトマップ | リンク集 | 専門用語解説 | 文字サイズ | 標準 | 大きく | ENHANCED BY Google | お問い合わせ

● 海外情報(野菜情報 2020年4月号)

台湾のキャベツ、ほうれんそうの生産・輸出動向について

調査情報部 小林 智也、吉田 由美

日本では、加工・業務用野菜の需要が拡大しており、原料用の生鮮野菜やそのまま調理に使用できる冷凍野菜の輸入量が増加している。台湾は地理的に近く、備蓄保管の仕組みがあることなどから、カット野菜向け葉茎菜類が不足した際に対応できる数少ない国である。今回の調査では、生鮮キャベツが加工用として輸入された事例に加え、品質面でユーザーから一定の評価を受け、ニーズの高まっている冷凍ほうれんそうの今後の見通しについても報告する。

1 はじめに

日本では、共働き世帯の増加などから総菜などに使用される加工・業務用野菜の需要は拡大している。しかし、加工・業務用野菜の全てを国産で賄うことが困難であることや、作柄による国内卸売価格の変動もあるため、定時、定量、定価格で調達しやすい輸入野菜を扱う動きが増加している。

台湾は、2019年の野菜の輸入先国・地域別シェアで見ると、生鮮で第6位、冷凍で第5位の輸入先であり、日本における輸入野菜の調達先として安定した地位を占めている。

本稿では、台風被害による国産の不作のため一時的に輸入が急増した生鮮キャベツについて、現地の生産および輸出状況、また、需要が増加している冷凍ほうれんそうについては、現地での生産体制をどのように整え、日本国内の要望に对应しているのかについて、今後の輸出動向などを合わせて2019年11月に実施した現地調査により得られた情報を中心に報告する。

なお、本稿中での為替相場は、1台湾ドル＝3円(2020年2月末TTS相場:3.038円)を使用した。

2 台湾産野菜の輸入について

(1) 日本における台湾からの野菜輸入動向

生鮮野菜の輸入量を見ると、2018年は一時的に増えたがおおむね80万トン程度で傾向で推移している。一方、冷凍野菜は2015年から増加している。(図1、図2)。

※今回の講演では、データの一部を更新しております。